

皆さんおはようございます。

今週の土曜日は、10月の31日です。10月31日といえば、何を思い浮かべますか。知っている人もいるかと思いますが、ハロウインの日です。最近では、この日や前の日の様子がテレビのニュースでたくさん放送されています。にこにこすくーでもやっていますね。合言葉のトリック・オア・トリートを言うとお菓子をもらえるということで、楽しいイベントというふうに思っている人がほとんどだと思います。このハロウイン、日本ではじまったものではありませんが、いったいいつ頃、どこで始まったことなのでしょう。学校図書館にある本で調べてみました。その本には、アメリカではこどものお祭りで、カボチャをくり抜いて作った提灯を窓辺に飾り、魔女や怪物などに仮装した子どもたちがトリックオアトリート(ごちそうしないといたずらするよ)といいながら近所の家を周りお菓子をもらおうというもの、とかいてありました。また、その本には、もともとはイギリスという国ではじまったお祭りで、秋に作物がたくさん実ったことをお祝いすることと、悪霊を追い出すためのお祭りだということです。

テレビのニュースでハロウインの様子がたくさん放送されるといいましたが、最近では、いろいろな派手な仮装をしてただ目立てばいい、自分さえ楽しければいい、そういった人が増えてきて、ハロウインで仮装した人たちが集まる場所に住んでいる人やそこのお店屋さんが、とても迷惑で困っている、そしてお巡りさんがとりしまっている、という様子もニュースで放送されます。自分さえよければいい、そういう自分勝手に、ほかの人に迷惑をかけているのに気づかない、そういうひともいるようです。楽しいイベントもみんなのことを考えながらやらなければなりません。

その反面、九峡小では、ほかの人のために活躍する人たちがいることを私は嬉しく思っています。それは、先週の月曜日のことです。なかよし班の集まりがありました。その集まりのあと、教室に帰って、振り返りをしていた6年生の姿を見たのです。話し合いでは、もっとこうすればよかった、ああすればよかったと、ほかの友だちのために、小さい子のためにと、自分以外の人のために話し合いがされていたのです。とてもりっぱな6年生だなと思いました。それから、先週の水曜日には、来年の1年生が健康診断に九峡小にお家の人と一緒にやってきました。そこでは、来年の1年生はお家の人と離れて、健康診断のためにいくつもの教室を回ります。当然、一人では回れません。そこにそばについて一緒に回ってくれたのが5年生です。自分より5才も小さい子を優しく教えてあげ、いくつもの教室に案内してくれていました。5年生がとても頼もしく、大きく見えました。6

年生も5年生も自分のためより人のために大活躍していました。人というのは、この「自分のためより人のため」に何かをやるときに、大きく成長するんです。輝くんです。この瞬間にやっぱり「子どもはダイヤモンド」なんだな、そう感じました。

1年生から4年生の人も教室で自分のためより友だちのために、何かできるといいなと思います。やってみてください。自分が輝きます。これで、校長先生のお話を終わります。